# 第１回　静岡市歴史まちづくり協議会　協議録概要

日　時　　令和８年８月４日（火）15：00～17：00
場　所　　静岡庁舎17階171会議室（Zoom対応あり）
方　法　　対面、ウェブ（Zoom）
出席者　　（委員）　町田会長（Zoom）、石山副会長【16：10頃～参加】（Zoom）
　　佐々木委員、姫岡委員、前田委員
　　（静岡県）景観まちづくり課（オブザーバー）
　　文化財課（オブザーバー）
　　（静岡市）観光文化・市民局
　　歴史文化課
　　観光国際課
　　都市計画課
　　景観まちづくり課
　　清水まちづくり推進課

■ 委員意見の概要

- **静岡市の市民性と観光振興に関する課題について**：静岡市民は自らが持つ歴史的資源の価値を十分に自覚しておらず、発信への意識希薄であるという指摘があった。また、通過点となってしまっている現状を変えるため、地域に根ざした教育の実施や、住民と行政が一体となった PR、滞在型観光を推進するための仕組み作りが必要である。

- **計画の構成や対象に関する改善について**：歴史的風致の対象に登呂遺跡などの古代の遺跡や、静岡市役所本館のような近代建築も含めるべきではないかという意見が寄せられた。また、保存と活用の循環を支えるための仕組みやコミュニティ、財源確保（宿泊税の検討など）の意識を盛り込むべきである。

- **観光消費額について**：総合計画に観光消費額について記載があることを踏まえ、観光消費額が低い理由について、もう少し分析してはどうかという意見が寄せられた。

- **観光客のターゲットと静岡市独自の観光戦略について**：観光客がなぜ久能山や静岡浅間神社に来るのか、なぜ来ていないのかを精査し、静岡市ならではの具体的な戦略として打ち出していく必要がある。富士山の入り口として拠点に選ばれやすい環境や、豊富な文化財を生かし、宿泊、体験、飲食などを含め、来訪者のニーズや各エリアでできることを整理した上で、見せ方や宣伝の仕方を工夫することが重要であるという意見が寄せられた。

- **文化財の活用と滞在時間の延伸について**：登録有形文化財の建物など、実際に活用されている事例を計画の前提として整理するべきである。飲食、体験、宿泊など、文化財を訪れる人が具体的に楽しめる活用のイメージを示し、それぞれの文化財について、現状何ができているのか、何ができるのか、どのようなニーズがあるのかを整理することが重要であるという意見が寄せられた。

- **文化財を面的につなぐ取組について**：登呂遺跡や久能山など、個々の文化財だけの価値説明ではなく、文化財をうまくつないで面で戦略的に発信することが必要である。芹沢銈介美術館や登呂遺跡など、古代の遺跡と建築がつくる空間や、他地域のスタンプラリー等のユニークな取組も参考にしながら、文化財をつなぐ取組を掲載していくとよいという意見が寄せられた。

- **計画全体の分かりやすい構成について**：いろいろな時代のいろいろな文化財がある中で、静岡市としてレイヤー感が分かりやすく伝わるよう、各対象エリアにどういう時代感のものがあり、何を結びつけたいのかが的確に分かる計画とすることが重要である。イメージ図やダイアグラム等を活用し、エリアの中での歴史のグラデーションを工夫して見せることが必要であるという意見が寄せられた。